

三沢基地航空祭 2016 で展示されることが発表されている航空機の簡単な説明文 ※三沢タイムズ調べ  
(2016年8月30日現在)

名称	分類	説明文	運用
F-15J	戦闘機	アメリカの戦闘機 F-15C を航空自衛隊の運用に合わせ仕様変更し、日本国内でライセンス生産した機体です。航空自衛隊の主力戦闘機です。	航空自衛隊
F-2	〃	日米で共同開発した戦闘機。ベースになった F-16 よりもサイズが一回り大きくなっています。対艦・対空・対地の任務がすべてできるマルチロール機です。	航空自衛隊
F-16	〃	アメリカで開発され、総生産数は 4,500 機以上にのぼり、20 を超える国で採用されたベストセラー戦闘機です。	アメリカ空軍
A-10	攻撃機	敵の戦車や装甲車などを攻撃し、地上で活動する友軍部隊を支援するための機体です。制式採用されてから 40 年以上経過した古い機体の為、退役することが決まっていたが、イスラム国対策に有効な攻撃機のため退役が無期限で延長されました。	アメリカ空軍
T-4	練習機	ブルーインパルスでも使用している中等練習機です。航空自衛隊の戦闘機パイロットのほとんどがこの T-4 で訓練を受けています。※一部はアメリカで訓練を受けています。	航空自衛隊
E-2C	早期警戒機	機体上部にある円盤状のレーダーを用いて、敵の航空機の動きを探る対空警戒・監視を任務としています。	航空自衛隊
P-3C	哨戒機	元々は敵の潜水艦を探すために開発されたので「対潜哨戒機」と呼ばれていましたが、不審船を捜索したり救難捜索をするなどの任務も与えられて、対潜が取れて「哨戒機」と呼ばれるようになった。	海上自衛隊 アメリカ海軍
P-8	〃	アメリカで開発された P-3 哨戒機の後継機。ベースは旅客機のボーイング 737 型です。	アメリカ海軍
C-130	輸送機	アメリカをはじめ、70 か国近くで採用されているベストセラー輸送機です。最大約 20 トン近くの機材等を輸送することが可能です。	航空自衛隊 アメリカ空軍

C-12	軽輸送機	民間の小型機をアメリカ軍向けに改修した軽輸送機です。主に要人の輸送に使われています。	アメリカ空軍
U-125A	捜索救難機	民間のビジネスジェット機に捜索用レーダーや赤外線暗視装置などを搭載し救難捜索機として改修した機体です。救難ヘリコプターのUH-60Jと一緒に行動して遭難者の捜索・救助にあたります。	航空自衛隊
UH-60J	救難ヘリコプター	アメリカが開発したUH-60を救難ヘリコプターとして独自に改良したヘリコプターです。赤外線暗視装置などを装備し、捜索救難機U-125Aと共に遭難者の救助にあたります。	航空自衛隊
UH-1	汎用ヘリコプター	ベトナム戦争の頃から使用されている汎用ヘリコプター。搭載されているエンジンなどの違いによって多くのバリエーションがあります。	陸上自衛隊 アメリカ空軍
CH-47J	輸送ヘリコプター	アメリカで開発された大型のヘリコプターで、ローター（回転翼）が前後に2つ配置されているのが特徴です。通常は物資の輸送に用いられますが、災害時には救難ヘリとして要救助者の救助や、支援物資の輸送にあたります。	航空自衛隊
RQ-4	無人偵察機	アメリカで開発された無人偵察機です。ミサイルや爆弾は搭載できません。高高度を長時間にわたって飛行することができ、行動可能時間は約36時間、航続距離は約22,000km（地球半周分くらい）といわれている。	アメリカ空軍